

## DPⅠ女性障害者ネットワーク

# 障害女性の被害を報告

## セクハラや異性介助

「DPⅠ女性障害者ネットワーク」(南雲君江代表)が昨年度取り組んだ「障害のある女性の生活の困難・複合差別実態調査」の報告書がまとめられた。この調査結果に基づいた意見は11日、障がい者

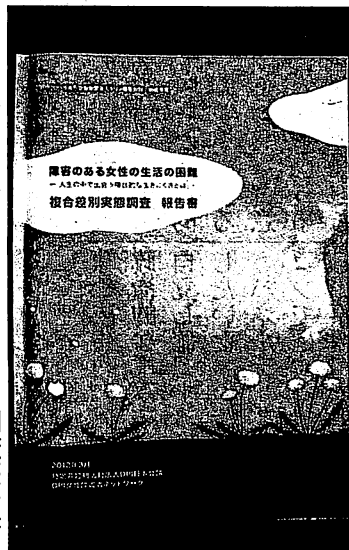
制度改革推進会議差別禁止部会で行われたヒアリングでも発表された。同ネットワークでは、障害女性に特化した施策を従来から要望しており、政府が立法化に向けて検討している障害者差別禁止法について

も、障害女性の困難な状況を改善し、他者との平等を担保するための条文を求めている。調査は、障害女性が表には出しにくかった生活の困難や生きにくさの実態を明らかにすることで、今後の法律

や施策づくりに活用することを狙いに実施した。昨年5月から11月にかけて複数の障害者団体などを通じて全国規

模で調査し、75人が書面で答え、16人が聞き取りに応じた(うち4人は両方に答えた)。年齢は20〜70代で、うち視覚障害者は24人。

DPⅠ女性障害者ネットワークの調査報告書



複数回答で計227の体験が寄せられた中で、一番多かったのは性的被害で45件。「マッサージの職場で休憩中、上司と2人きりになると、後ろから抱きつかれた」といった事例について報告書では、「障害のために走って逃げる事ができない、反撃する力がない、声や顔で加害者を特定できない、判断力がないとみなされる、自分の立場の弱さを知

っているなど、障害女性の弱みにつけ込む加害者が多い」と分析している。ほかにも、男性が女性の介助をする異性介助を多くの回答者が問題にしているほか、恋愛・結婚・離婚や性・生殖、家事・子育て・介護、就労の分野でも、障害女性が経験した困難が生々しく記述されている。同ネットワークは、障害女性の固有ニーズに対応できる施策の必要性を

指摘、①障害者について行う調査での性別の集計②施策形成過程での障害女性当事者の参画③性の違いによる格差をなくす方向性を持った障害者施策の策定――などを求めている。

報告書は墨字のほか、点字版、テキストデータ版がある。問い合わせは電子メール、[diwomen@gmail.com](mailto:diwomen@gmail.com)。